

古写真でたどる霧の御坂 — 武蔵御嶽神社参道の近代史 —

「御嶽仙歌」の歌詞から

日本画家・川合玉堂は、俳諧にも通じ「多摩の草屋」なる句集を残している。また和歌も詠み、昭和三十年の歌会始には召人となった。玉堂は花鳥風月を「描く」ことのみならず、「詠む」ことにも秀でていたのである。

この玉堂が御嶽山を題材に作詞し、古関裕而が作曲したのが、「御嶽仙歌」である。登山鉄道の駅舎で、あるいは山上の土産物屋で流れるこの歌を耳にされた参拝者の方も多いと思う。この歌詞には、次のような一節がある。

霧の御坂の太々神楽、
天に通へと鳴りひびく

御坂とは、参道のことである。頂上の神社へと続く参道の途中の、社殿から聞こえる太々神楽の笛、太鼓の音色がこの歌には詠み込まれている。「霧の御坂」とは、霧がかかる参道の様子を表現した言葉に思われるが、実は特定の地点を示す地名でもあった。

「霧の御坂」とはどこか

資料①は明治中期に出版された「武蔵御嶽山全圖」の一部である。この版画は御嶽山の全景が描かれている。



資料① 武蔵御嶽山全圖の一部

神社にて多数頒布され、また御師達が各地域の講中の方々の元へと持参したものであろう。この版画の中に「キリノ御坂」と書かれた箇所を見つけることができる。社殿へと通じる坂道の「楼門（現在の随神門）」から「銅鳥居（かなどりい）」までの間、杉檜の大木が黒々と描かれた部分こそが、「霧の御坂」である。

古写真で見る「霧の御坂」

資料②は絵葉書の写真で、標題には「武蔵御嶽山中ノ境内」とある。番傘を差した人物が銅鳥居付近の石段を登り、参道の両脇には針葉樹の並木が続き、大木は空を覆うかのようである。



資料② 絵葉書の写真（大正〓昭和初期）

資料②、③の写真から、参道は道幅が現在よりも狭いことがわかる。樹齢三百年を超える杉檜の大木が根を張っていたからであろう。また地面も土を自然石の石組みが受け止めている。ここを歩けば水墨画に描かれるような、霧にかすむ針葉樹の姿を見ることができたのである。



資料③ 絵葉書の写真（大正〓昭和初期）

受難 — 台風による被害 —

資料④は御師宅に奉納された写真である。昭和四十一年九月との記録がある。資料②とはほぼ同じ場所が写されている。杉檜の大木が倒れて参道に横たわり、人々の行く手を遮っている。台風がもたらした、強風が原因であった。昭和四十一年九月二十五日には、日本列島に二十四号と二十六号という二つの台風が上陸している。特に二十六号は東日本に影響を及ぼし、静岡県と山梨県では大規模な土石流や河川の急激な増水により大きな被害が出た。

御嶽山もこの台風二十六号により深刻な被害を受けた。この「霧の御坂」のほか神域の木々は倒され、一部の建物を破壊し、土砂崩れを引き起こした。大木が鬱蒼と茂り、昼ですら薄暗いと言われていた境内地は、これを境に様子が一変したのである。



資料④ 写真（昭和四十一年九月）

神社参道のいま

資料⑤は、現在の「霧の御坂」である。資料②の古写真で番傘を差した人物が見上げる銅鳥居は今も変わらない。大木が倒れた後に自生してきた落葉樹が見え、参道の脇に講中・崇敬者による敬神碑が建立されてきているのがわかる。また、参道の石段も補修され、土が露出していた箇所もコンクリートにより補強されている。



資料⑤ 写真（現在 銅鳥居下）

の場所を幻想的な、あるいは神秘的な空間へと変えることもある。「霧の御坂」は、神宿る山の霊威の強さを感じさせる。

芸能奉納募集

お囃子や神楽・楽器演奏など、御奉納頂ける方を募集しております。ご希望の方は御師、又は神社までお問合せ下さい。



修行体験講座（滝行他）

目を開いていても、意識しなければ見えていないことに気づきません。意識して動く、一歩のあゆみでも、目の前の景色が変わって行く事に気づきます。

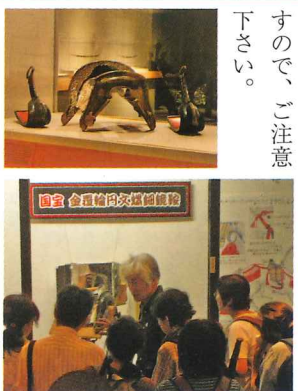
- 一泊二日体験講座
六月二十六日(土)〜二十七日(日)、
九月十一日(土)〜十二日(日)
日帰り体験講座
七月十九日(祝日・海の日)
資格 十八歳〜六十才くらいまでの健康な方
開催人員 三十名まで
費用 一泊二日 一万五千元
(申込金・五千円振込)
日帰り 七千元
(申込金・全額七千円振込)



沢山の方の御参加をお待ちしております。締切 開催一週間前 申込金の事前振込が必要です。

国宝円文螺鈿鏡鞍馬社する

米國・メトロポリタン美術館(ニューヨーク市)に、出展されていた「国宝・円文螺鈿鏡鞍馬」が帰社いたしました。三月から拝観いただけます。出展記念の土鈴も授与いただけます。



レンゲシヨウマまつり

関東一の群生地といわれる当山。境内地でも、その可憐な姿を楽しめます。親子で楽しめる舞台や古典にふれる幻想的な音楽会などのイベントがございます。フォトコンテストや写真展も開催されます。例年ですとレンゲシヨウマは9月上旬頃まで楽しめます。詳しいイベントの内容は、お問い合わせください。

